

特集 未来へつなぐ「国連生物多様性の10年」せいかりレー キックオフイベント
あいち・なごや生物多様性EXPO

生物多様性のこれまでの10年を振り返るとともに、これからの10年に向けて、自分たちには何ができるかを改めて考えるイベントとなりました。その一部を紹介します。



生物多様性2020
あいち・なごや宣言(抜粋)

私たちは、様々な立場の人々が一堂に会したこの「あいち・なごや生物多様性EXPO」を新たな出発点として、広い視野を持って連携の輪を広げ、「自然と共生する世界」の実現に向けて、一人ひとりが行動していくことをここに宣言します。

2020年1月12日
「あいち・なごや生物多様性EXPO」参加者一同

シンポジウム

さかなクンの基調講演や事例発表、事例紹介者・SKE48・MAGIC☆PRINCE等によるパネルディスカッションなど多彩なプログラムを開催しました。

あいち・なごやの取り組み紹介

なごや生物多様性保全活動協議会が発表しました!

SKEメンバーも気になった「ため池・池干し調査」のほか、なごや生きものの一斉調査、外来種の防除など取り組みを紹介しました。



◎今後の課題は...

ユース世代に向けて発信するとともに、より多くの人に参加してもらえるような仕組みづくりを目指します!

パネルディスカッション

「生物多様性からSDGs時代を考えよう!」というテーマで開催。これからの10年は生態系を守るだけでなく、+αの行動を当たり前にしていくなど、貴重な意見が交わされました。

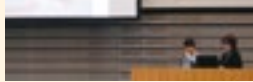


認定事業表彰

なごや生物多様性保全活動協議会が、UNDB-J認定連携事業(第15弾)に認定。市民・市民団体・NGO・企業など、多様で幅広い連携による保全活動等が評価されました。



イベントホールのステージでは
ブース出展者の活動発表も行われました



「あいちの海」グリーンマップ



地球ハグ倶楽部 高校生ユニット "kinokobito&Honey yuna"

各出展者も宣言!

『なごや生物多様性センター』

市民の皆様や様々な主体との連携を深め、ネットワークを強化し、生物多様性保全活動を進めてきます。



『なごや生物多様性保全活動協議会』

生物多様性の保全で豊かななごやへ!
市民・行政・企業・学校等の協働の力で!!



生物多様性交流ひろば

「生物多様性交流ひろば」にはNPO・企業・学生らによる73ブースが出展。生物多様性フードコートや写真・絵画展、ステージ発表なども行われ、熱気あふれる広場となりました。

なごや生物多様性センター

「レッドデータブックなごや」や特定外来生物の標本展示、センターまつり等の映像により、当センターの取り組みを紹介しました。



ブラックバスのからあげ試食

提供時間には大行列!えびせんべいでできた食べられるお皿も大好評でした◎



なごや生物多様性保全活動協議会

絶滅危惧種「カワバタモロコ」の展示や、活動報告書・一斉調査の報告書・ガイドブックなどを配布しました。



どんな生きものが絶滅の危機にあるのか知ることが、守るための第一歩!



TOPICS

庄内緑地「ガマ池」の池干し ～小さな池の大きな発見～



庄内緑地の管理者より、公園内にある「ガマ池」の水質浄化を目的とした池干しへの協力依頼を受け、なごや生物多様性センターとなごや生物多様性保全活動協議会が協力する形で令和元年12月8日(日)に池干しを実施しました。

ガマ池には過去の調査でヌマギイが生息していると“思われて”いました。ヌマギイとは、大人の手のひらより大きくなる淡水産二枚貝(以下、二枚貝)です。「名古屋市版レッド



リスト2015」で絶滅危惧IB類に評定されており、名古屋市内の分布は限られています。ヌマギイを含むイシガイ科の淡水産二枚貝は繁殖の際、グロキディウムと呼ばれる幼生を放出します。この幼生がヨシノボリなど小型魚のヒレに寄生し、成長するという独特の生態を持っています。ガマ池には事前の調査でヨシノボリ類が多く生息しているということが明らかになっていました。したがって、二枚貝を保全

するには一緒にヨシノボリを保全する必要があります。協議の結果、危険分散の観点から水を抜き切る前に一部をなごや生物多様性センターで、残りをガマ池下流のポート池にて保護することとなりました。

池干しの前日である12月7日、池の水を残した状態で二枚貝とヨシノボリの捕獲を試みました。この日、二枚貝がおおよそ250個体、ヨシノボリがおおよそ300個体捕獲され、複数のヨシノボリのヒレにグロキディウム幼生の付着が確認されました。池干し当日は水をほとんど抜き、生物調査などを行ないました。確認された生き物は19科23種で、最も個体数が多かったのはスジエビの5,669個体(39%)、次いでフナ類が3,493個体(24%)となっており、次いでモツゴが2,857個体(20%)でした。この3種で全体の83%を占めていました。外来種にはカダヤシや越冬中のウシガエル幼生などが確認されました。捕獲した生き物のうち、在来種は下流のポート池に

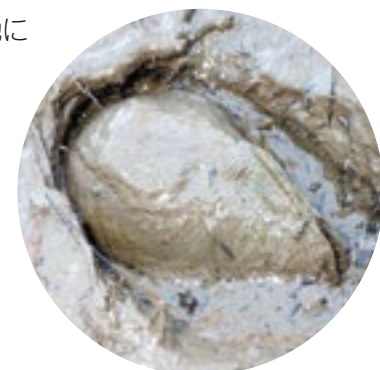


生きものの展示・解説

放流し、外来種は生態系に影響を及ぼす恐れがあるため取り除きました。

池干し後、専門家から「ヌマギイとされていた二枚貝が別種である可能性がある」という指摘があり、詳しく調べていただきました。結果、今回捕獲された二枚貝は全てフネドブガイであることが明らかになりました。フネドブガイは全国的に見ても分布が限られており、名古屋市では今回が初確認であったことに加え、グロキディウム幼生が観察されたことは大変貴重な記録となりました。ガマ池に水が戻ってからは、保護したフネドブガイ、ヨシノボリを再放流します。フネドブガイ、ヨシノボリをはじめその他の在来種にとって良好な環境をいかに維持するかが今後の課題となります。

(野生動物生態研究会 今井 洗貴)



フネドブガイ



むなびれ 胸鰭に付着したグロキディウム幼生

名古屋市で初めて発見されたフネドブガイ

フネドブガイは極東地方に広く分布するドブガイの仲間です。殻が楕円形で強く膨らんで殻頂が中央付近に位置するのが特徴です。寿命は10年程度で砂泥〜軟泥底に生息します。愛知県では犬山市や豊橋市のため池や河川で発見されています。

2019年12月に庄内緑地内にあるガマ池の池干しによってフネドブガイが名古屋市で初めて発見されました。ガマ池では幼貝を含む多数の個体が発見されたため、最適な生息環境で世代交代が繰り返されていると考えられます。また、同所的に確認されたヨシノボリの仲間の魚類は、フネドブガイのグロキディウム幼生の宿主であるため、フネドブガイだけでなくヨシノボリ類も含めて保全する必要があります。ガマ池の底質がフネドブガイの好む砂泥〜軟泥質であったことも個体群の維持につながっていると考えられます。さらにはフネドブガイの餌である植物プランクトンが適度に供給され、本種が棲息するのに適した水質が維持されているようです。

しかし、ガマ池内では外来種のカメや魚類等が発見されており、今後これらの外来種の個体数が増加すると

